



北3病棟 病棟紹介

北3病棟は主に内科の患者様が入院される病棟です。入院されている方は人工呼吸器を装着していたり、痰の吸引、経管栄養(口から栄養を摂ることが難しかったり、誤嚥の危険性が高い方にチューブを使用して栄養を注入する方法)が必要など医療的ケアの高い患者様が入院されています。また、糖尿病や肥満症や禁煙を希望する方への教育入院など比較的短期間の入院の方も入院されています。患者様、ご家族様のニーズに対応できるよう医師・看護師・リハビリスタッフ・ソーシャルワーカー・栄養士などが連携し、チーム一丸となって支援に取り組んでいます。

その他にご自宅で療養されている方にもよりよい在宅生活を継続していただけるよう、ご家族の休養やリフレッシュを目的とした短期間の入院(レスパイト入院)もお受けしています。住み慣れた地域、ご自宅で自分らしい生活を続けていただけるよう支援させていただきますので、お気軽にご相談ください。



(北3病棟看護師長 柏木 めぐみ)

能登半島地震

医療班の活動報告



この度は、被災地での活動をを通して、非常に貴重な経験をさせていただきました。

三重病院医療班は、被災からちょうど1週間が経過した1月8日に被災地へ到着しました。

輪島市方面は特に手つかずの状態と言葉も出ない光景が多々ありました。私の活動は、三重病院の医療班とは別行動となり、輪島市役所内の調整本部でロジとして、主に避難所の情報整理を担当しました。そして、整理した情報を元に、どこの避難所へ医療班を派遣する必要があるのか、様々な医療機関等の方々と協議するという業務を担いました。



後に報道等で話題になりましたが、輪島地域では指定避難所ではなく自主避難所が多く存在していたという実態にまさに直面しており、担当した業務は極めて困難な状況でありました。

現地では、連日早朝から夜遅くまで被災地での活動は続き、時には心が折れそうになった時もありましたが、三重病院医療班はみんな明るく、落ち込んだ時には励ましてもらい、とても素敵なチームでした。

三重病院医療班全員に感謝の気持ちでいっぱいです。また、無事に活動を終え、無事に帰って来られたのは、院内の多くの方々にご支援をいただいたおかげであり、感謝申し上げます。被災地での医療がどのようなものなのか、直接肌で感じられたことは、今後に活かしていきたいと思います。

(契約係 山崎 平太)



通所支援事業のひとコマ



ひな祭りを過ぎ、春らしい陽気の日が多くなってきました。今年は2月中旬から日中暖かい日が多くて、中庭で栽培している「えんどう豆」のさやがもうぷっくりしてきています。

2月のつつえんは、利用者やご家族さんと体調不良の方がおられて、1日の利用者が1~2名となる日が続きました。日中活動は1対1以上で、節分イベントで鬼のコップ倒しをしたり、お花紙をちぎって丸めて「菜の花」を作ったり、ひな人形を飾りつけしたり、ゆったり・のんびりと活動を楽しんでいただきました。また空いた時間には個別で絵本を読んだり、排便を促すケアをしたりもしています。お散歩が好きな利用者さんとは、午前・午後とお散歩に出かけ、イチゴの花付きを確認したり、水やりをしたりしました。

これからますます屋外での活動を楽しみたいところですが、花粉症の方も多いため、屋内でも春らしさを感じられるように、活動内容を工夫していきたいと思います。(療育指導室長 村松 順子)



やまばとギャラリー 情報コーナー information

今月の作品は、3月ということで「おひなさま」です。さまざまな色や柄

の着物をまとっており、見ているだけで明るく華やかな気持ちになってきます。患者さんが一生懸命作った作品です。是非やまばとギャラリーへ

足を運んでご覧ください!

(児童指導員 森 日奈子)

